

マンガ 西野の歴史

わたしたちのまち

西野



西野ものがたり編集委員会









森が
続いて
いるだけ

家どころか
道路も
ないよ!!

これが
昔の西野



向うに
見えるのが
西野地区だ

ええ!?
これが!

西野ものがたり 目次と年表

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|------------------|------------------------|---------------------|----------------------|------------------|--------------------------|--------------------|-------------------|--------------------|------------------------|----------------|---------------------|---------------------|---------------------------|-------------------------|------------------------|----------------------|-------------|--------|-----------------------------|-----------|
| 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| 未来に向けて(現在) | ひろがる住宅地(昭和45年から) | 札幌市との合併(昭和45年・西暦1970年) | バス開通(昭和24年・西暦1949年) | 電灯がつく(昭和21年・西暦1946年) | 温床苗代(昭和のはじめごろから) | 小別沢トンネルの開通(昭和3年・西暦1928年) | 円山朝市(大正7年・西暦1918年) | 水車が百四十基(大正5年ごろから) | 大冷水害(大正2年・西暦1913年) | 小別沢の山火事(明治43年・西暦1910年) | 西野米(明治33年ごろから) | 西野神社(明治32年・西暦1899年) | 冬山造材(明治30年・西暦1897年) | 右股農業用水路の完成(明治29年・西暦1896年) | 西野分教場の設置(明治24年・西暦1891年) | 西野道路の開通(明治20年・西暦1887年) | 稲作の試作(明治19年・西暦1886年) | 円山学田地と琴似学田地 | 入植と炭焼き | 西野まちづくりのはじまり(明治17年・西暦1884年) | 水の精霊イース登場 |

49 47 45 43 41 39 37 35 33 31 29 27 25 23 21 19 17 15 13 9 5 1 ページ

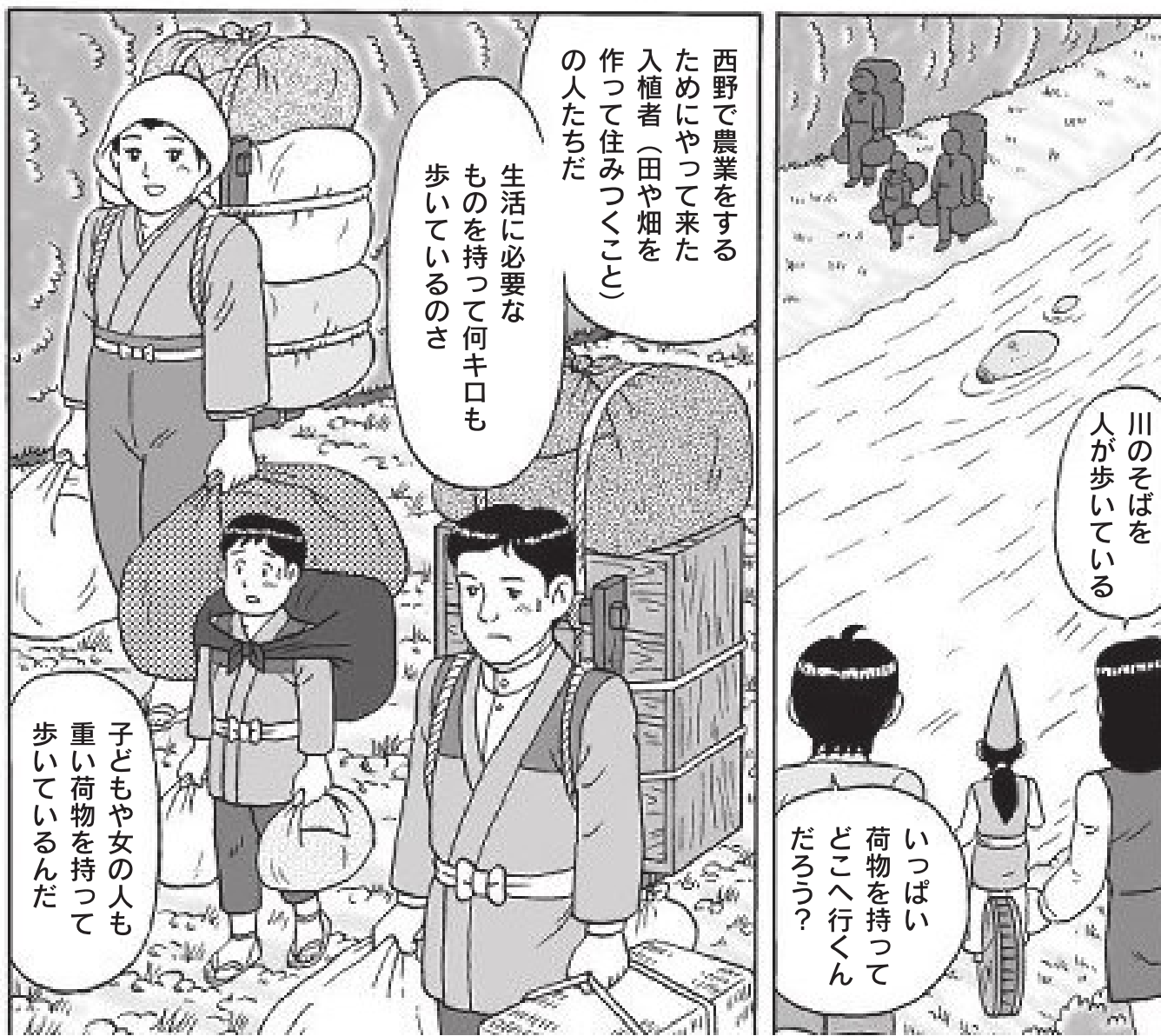


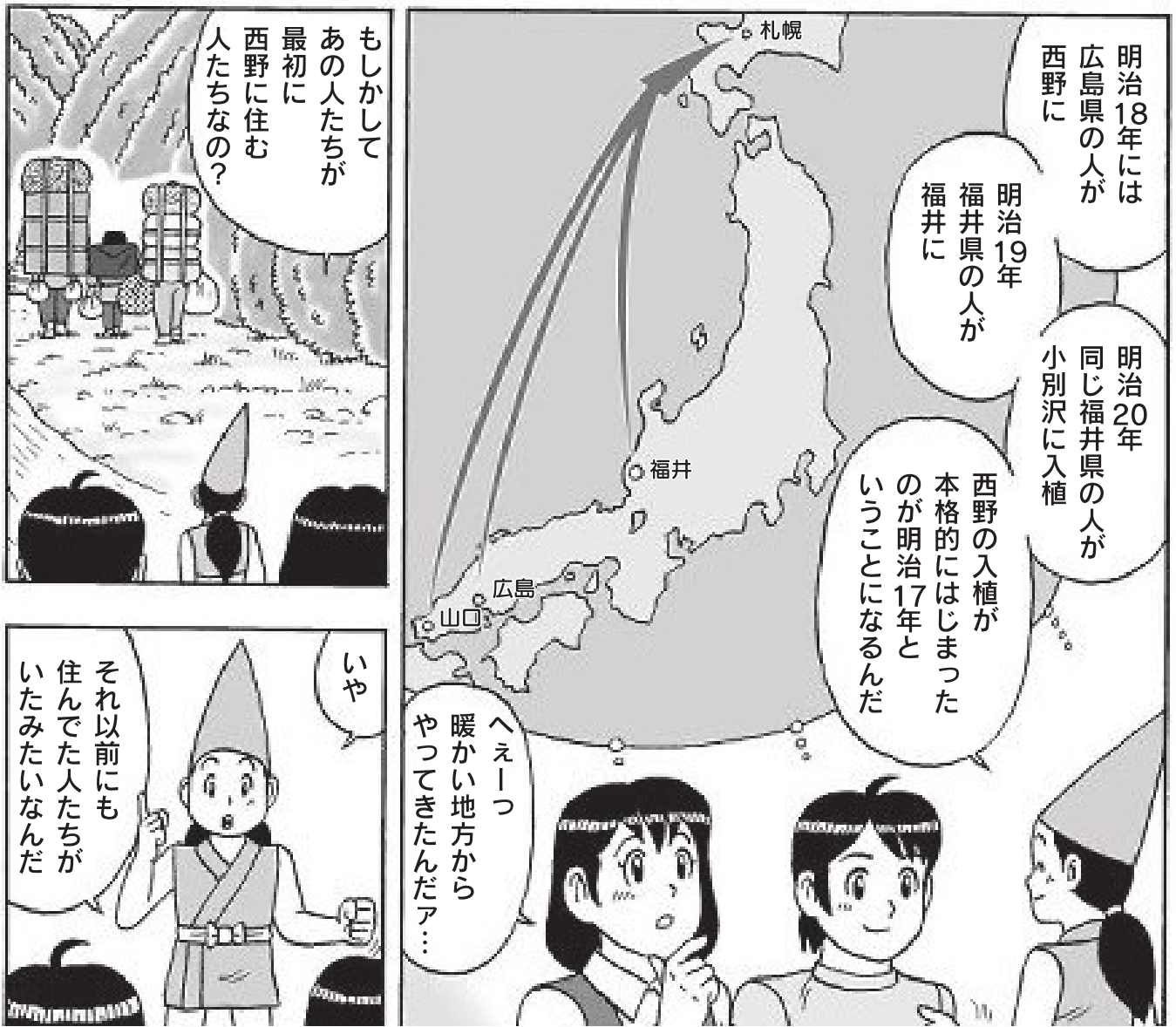
ボクたちの
まちの歴史

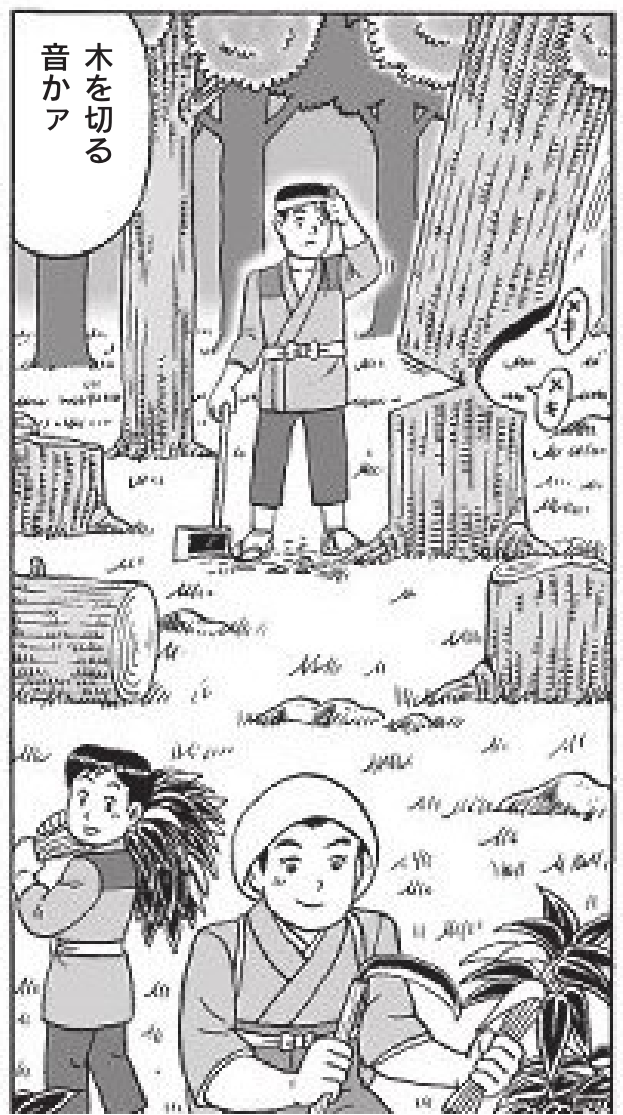
まず
二人には
西野の歴史を
見てほしいんだ

そんな
あせらない

イース
水車を
見せて
くれるんじゃ
なかつ
たの









子どもの力も
大切な労働力
だったんだよ

ボクたちくらいの
子どもも働いて
いる…



入植した人たちは
自分たちで
食料を手に入れる
しかなかったからね

そこを
たがやして
畑にする



虫って
大きらい
よ!!

イツ



わっ

その上
カやブヨなど
害虫に悩まさ
れる



本当に
つらく
苦しい
仕事な
んだ



畑で
育ちはじめた
農作物を
シカに食べられ
ることもあっ
たんだ



クマや
オオカミに
会ったことも
多かったし



グアッ

うわっ



ものすごい
苦勞をして
畑を作って
いったん
だ…

そうね…

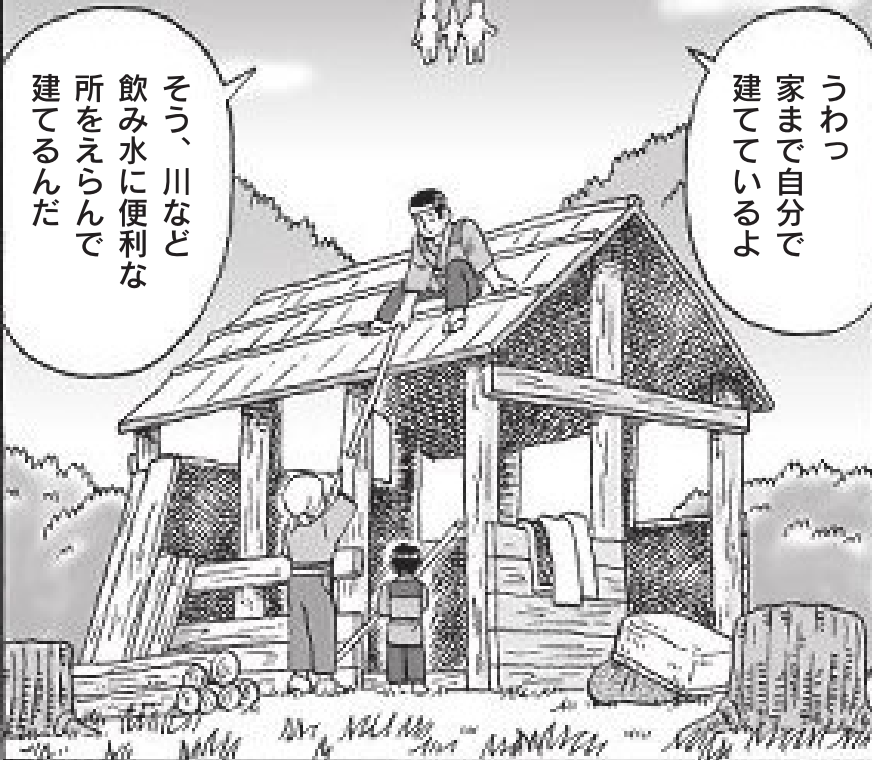
うわっ
家まで自分で
建てているよ

そう、川など
飲み水に便利な
所をえらんで
建てるんだ

そうか
水道なんて
まだないから
だね

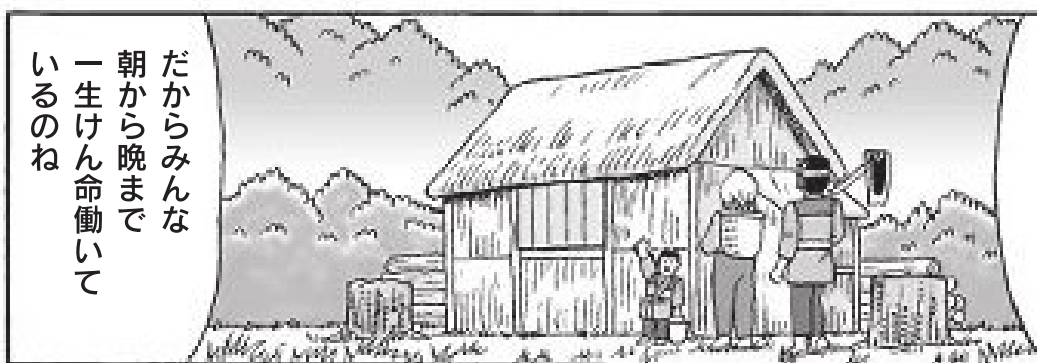
そうさ

昔の人はすごいね
何から何まで
自分たちだけで
やってしまうなんて



入植一年目は
寒い冬が来るまでに
やっておかなければ
ならないことが
いっぱいあるんだ

だからみんな
朝から晩まで
一生けん命働いて
いるのね



あの小屋は
なに？

なんだ
と思う

？



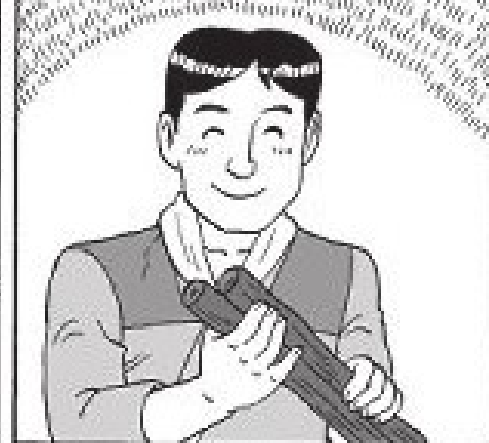
小屋から
ケムリが
出てるよ

火事!!

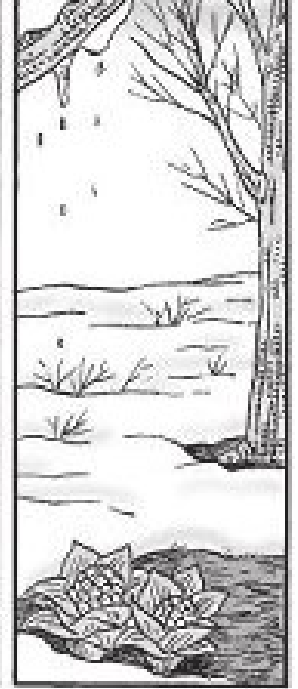
まさか

中から
黒いものを
出している









あれ
何してるの
かしら

春になったし
フキノトウを
採っているんだ



西野は
フキやウド
などの山菜の
宝庫だからね
山菜は
大切な食料
だったんだ



ここは農作物の
発育がいいわね

良質な土地に
くわえ 琴似 発寒川
の近くだから水に
恵まれていたんだ



少しずつ
畑が
増えて
ゆくね

みんなの
笑顔もふえ
てきたん
じゃない



がんばって
もつと畑を
広げて農作
物をたくさ
んつくる

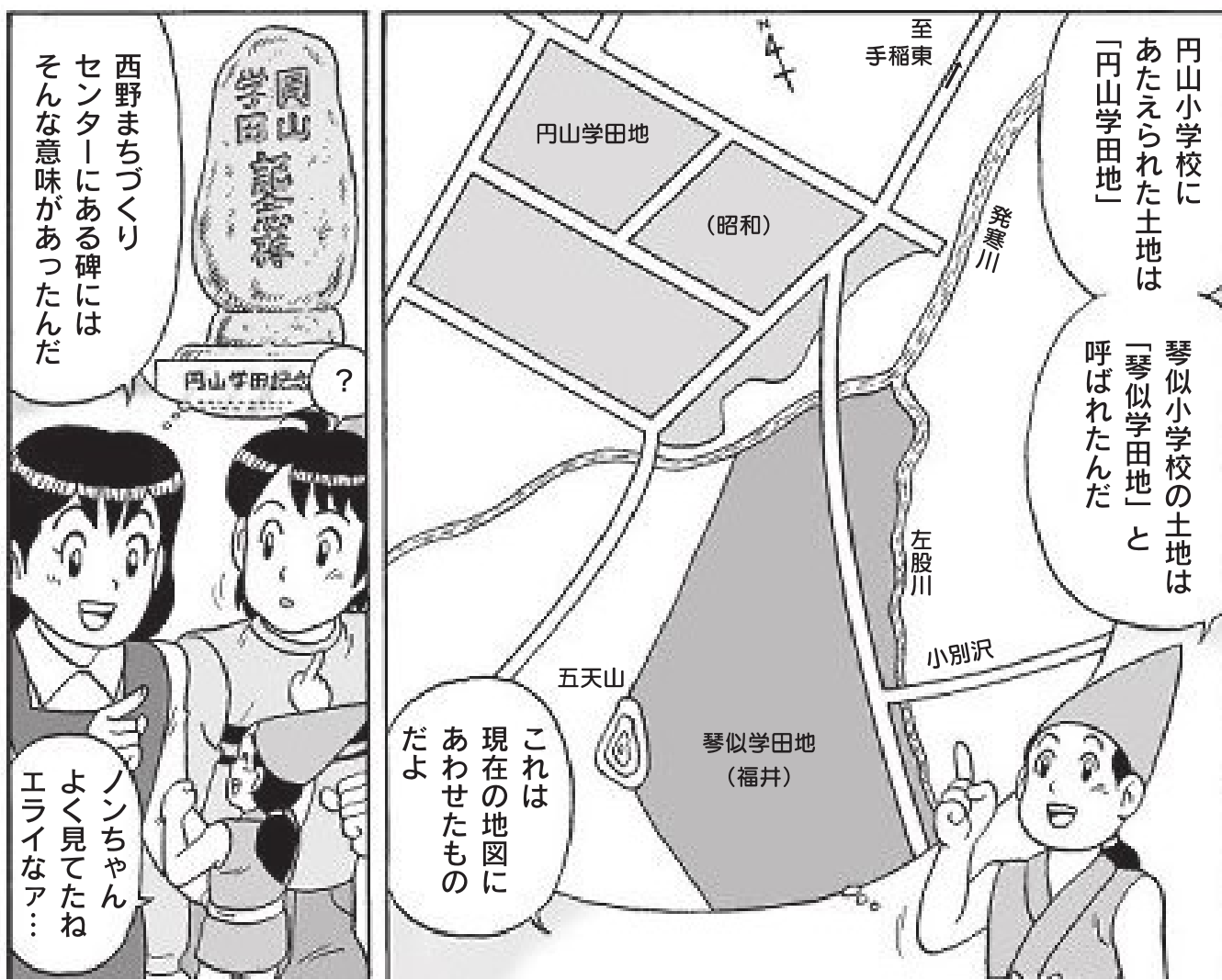
冬でも
暖かい
新しい
家を建てる
ことが
できるわね!!



でもね
西野の場合
お金を払わ
なければ農業
ができない
土地もあつ
たんだよ

えっ

どうい
うこ
と?







なにかまいた

稲の種ミニ
だよ

水田ですか



三年前に白石で
米がとれたが
ずいぶん苦勞
したみたいですよ

でも

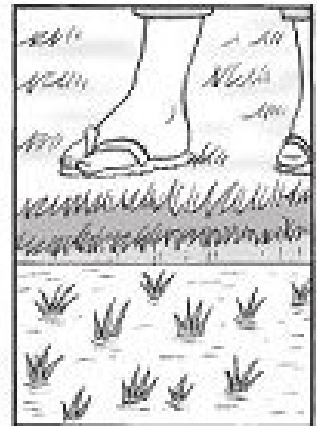
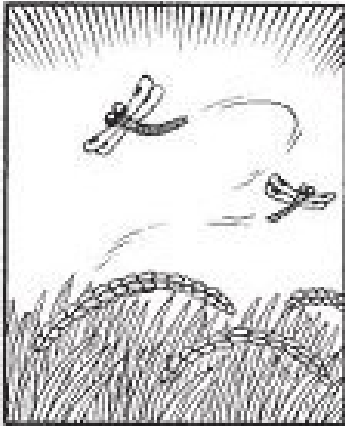
札幌から入植して
きた人が西野は盆地で
暖かで札幌より肌着
一枚少なくてすむ
と言っていたもので

それじゃここでも
米がとれるんじゃないかと
思ってたね



毎日のように
雑草をとって
いるわね

米を作るには
手間のかかる
仕事なんだ



収穫は少ないけれど
西野でも米ができ
ましたよ

やりま
したね

西野でも
米が作れ
るんだ

よし来年は
わたしも稲作に
挑戦してみるぞ!!



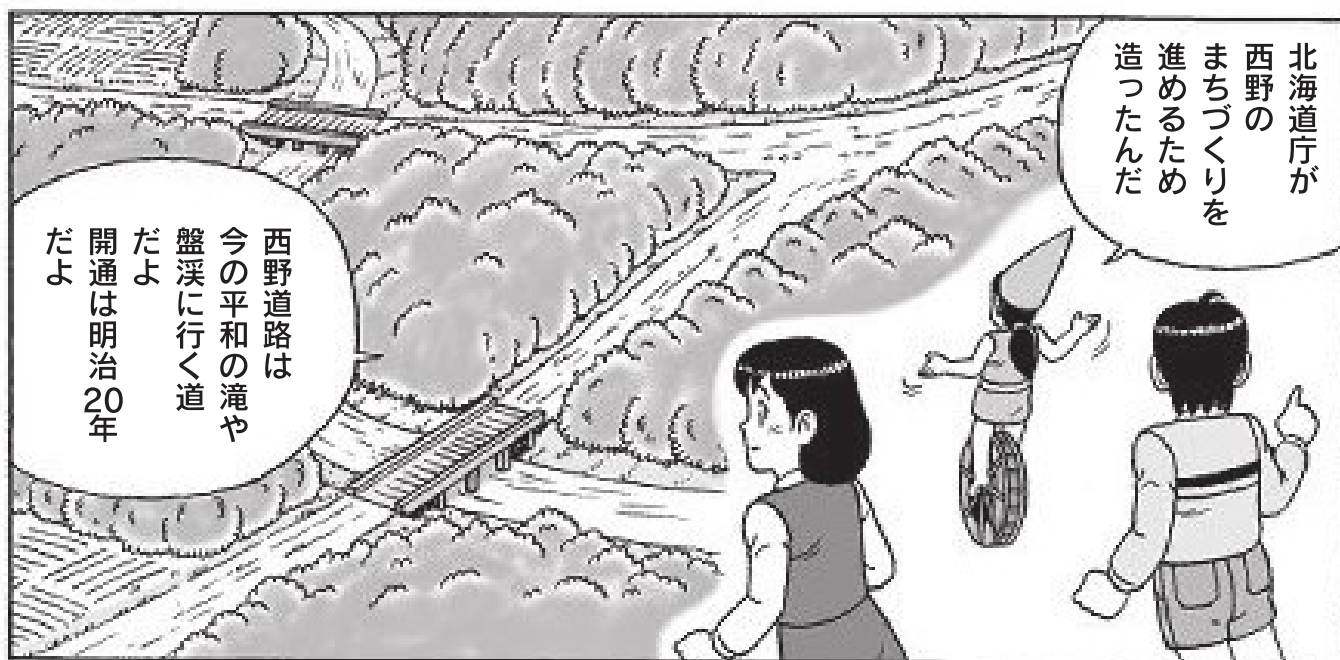
これが
西野の
稲作の
はじまり
明治19年の
ことだよ

西野の子
どもたちも
おなかいっぱい
ご飯が食べられ
るのね!!

んーっ
それは
もうちょっと
先のことに
なるな

そうなの
……







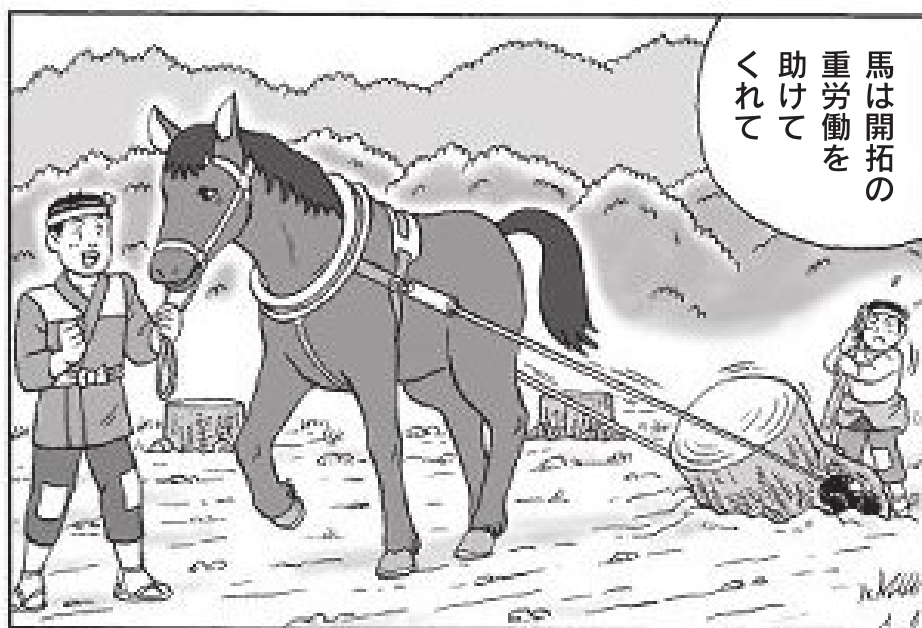
冬になれば
馬ソリ!!

西野の入植者
にはなくては
ならない
道路だった
んだ



道路が
できると

馬を使って
人ばかりか
炭や農作物も
たくさん運ぶ
ことができる



馬は開拓の
重労働を
助けて
くれる



馬って
今の自動車
かわりだった
のかな

うーん
それ以上の
モノだったん
じゃないかな



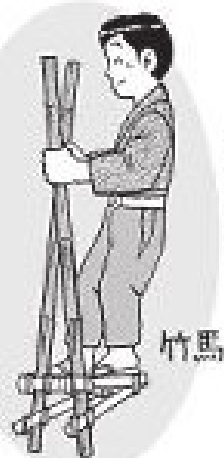
だから
入植者たちは
馬を家族と
同様に大切に
扱っていた
んだ



農作業の
手伝いも
してくれた
からね



この時代
オモチャなんて
ほとんど買って
もらえなかった



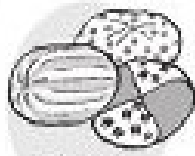
竹馬



コマ



竹トンボ



お手玉

だから身近
にある材料を
工夫して作って
みんなで遊んで
いたのさ

すごい
上手に
作って
いる!!

わたし
なんかには
マネでき
ないよ



ほかには夏は
川で泳いだり
魚を捕ったり



クワガタやセミなどの
虫とりも人気があったよ



明治時代の中ごろ
にはスケート
大正時代になると
スキーで遊ぶように
なったんだ



ちよつとまって
みんなへんな
ものはいて
すべってるよ

ムフフフ
ゲタに金属を
つけたのが
スケート

スキーは丸木を
けずって
作ったのさ

ええっ



それに子どもたちは
家の手伝いもしていた

水くみ
フロたき

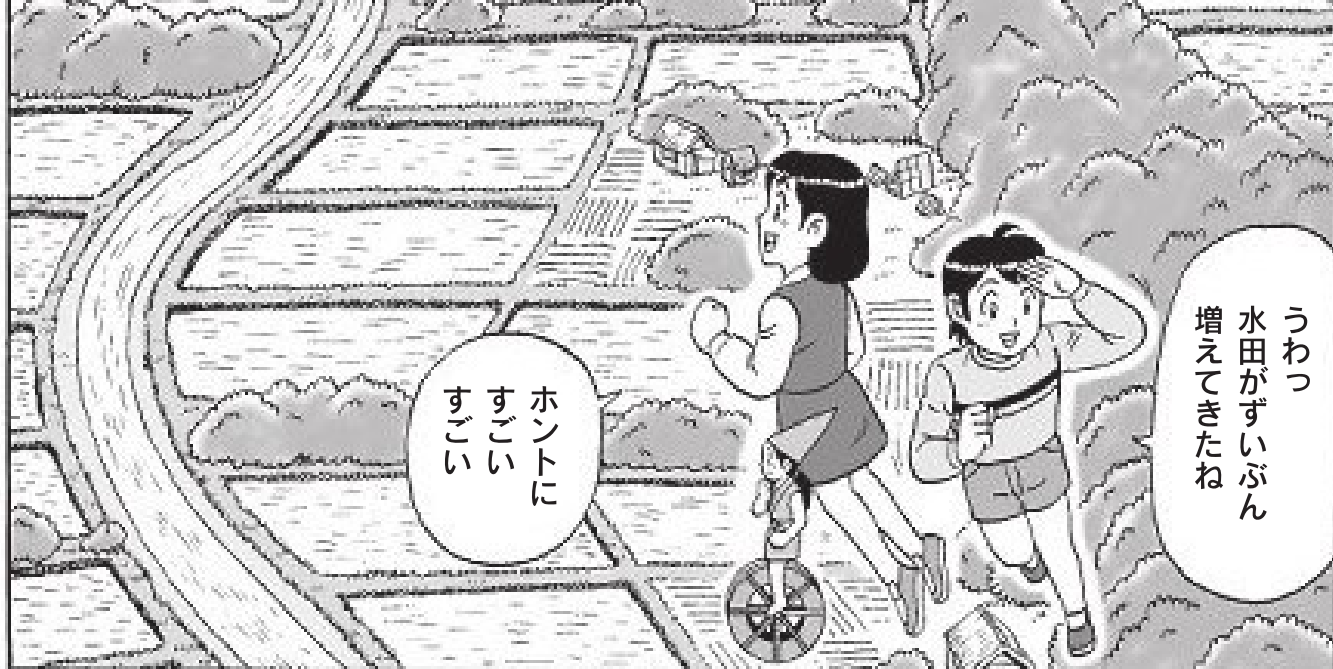
そうじに
ご飯のしたくなど
いっぱい仕事があったんだ

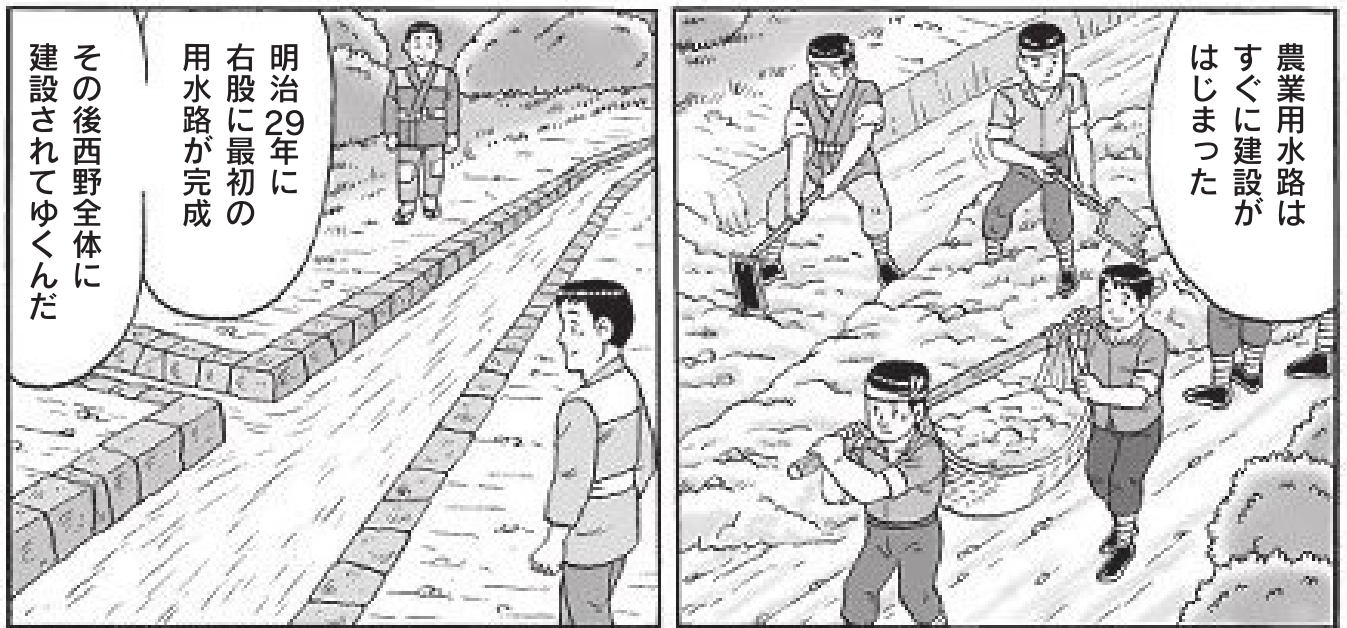


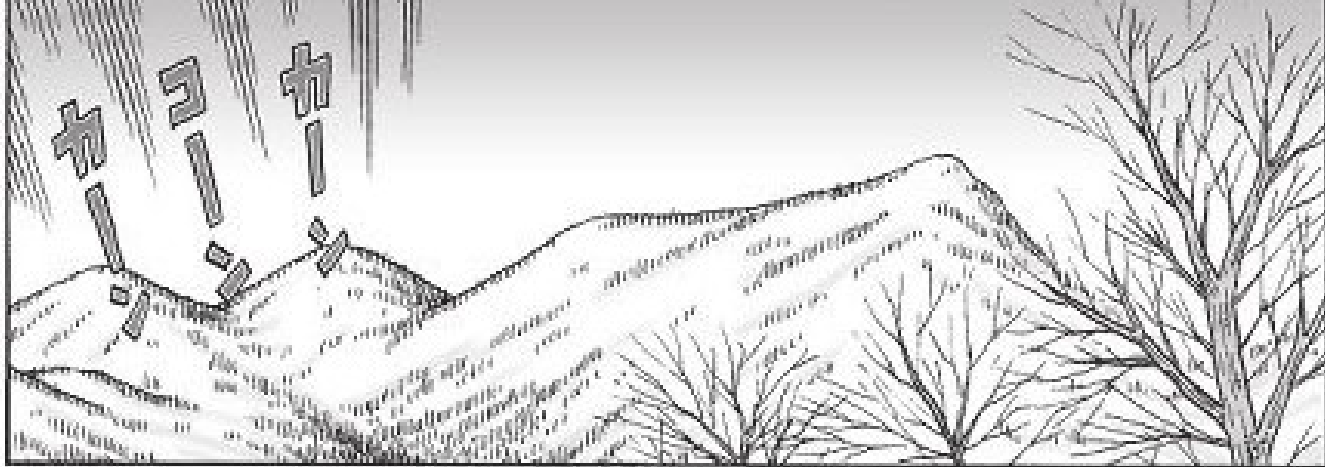
フエーッ
こんなに
手伝う
の...

えらいなア
わたしなら
すぐふて
くされちゃう
のに...











雪が積っている
あいだに山から
おろしておく



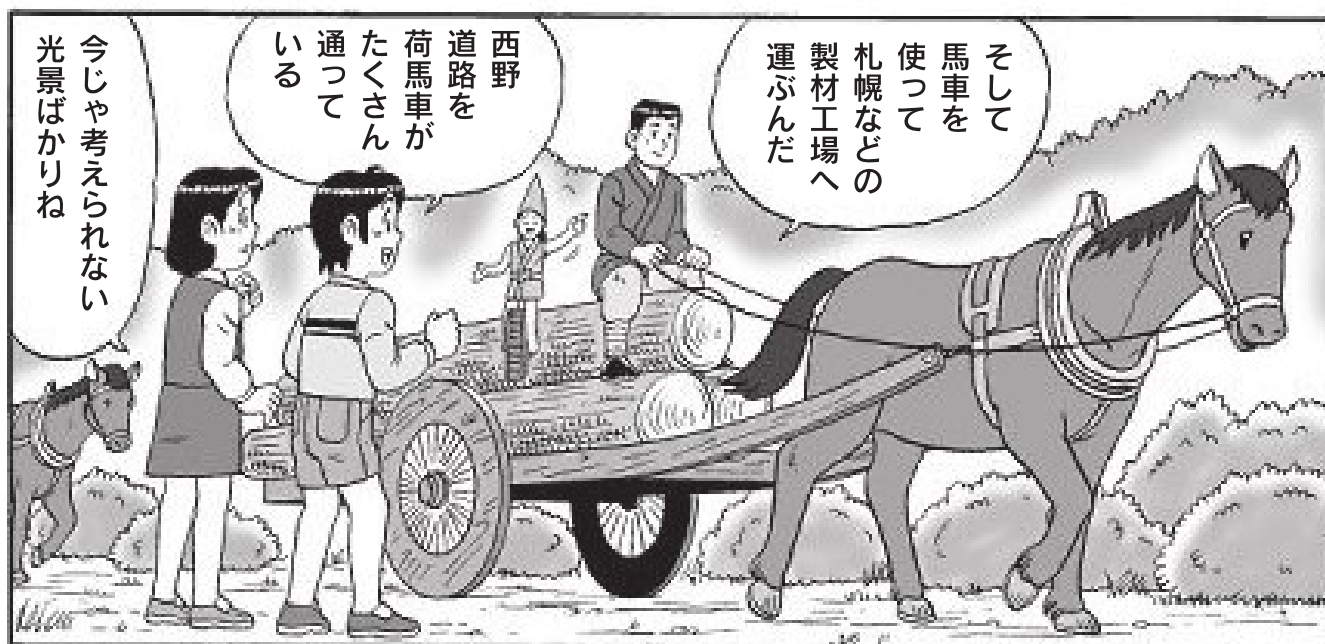
たおした木は
枝を切り
落して



春になると
発寒川で
流したりして
運んだん
だよ



その
材木は
冬は
馬ソリ



そして
馬車を使
って
札幌など
の製材工場
へ運ぶんだ

西野
道路を
荷馬車が
たくさん
通って
いる

今じゃ考えられない
光景ばかりね



西野の木材は
から松、とど松、
かつらなどで

外国に輸出
されるほど
品質が良かった

特にかつらは

良質で

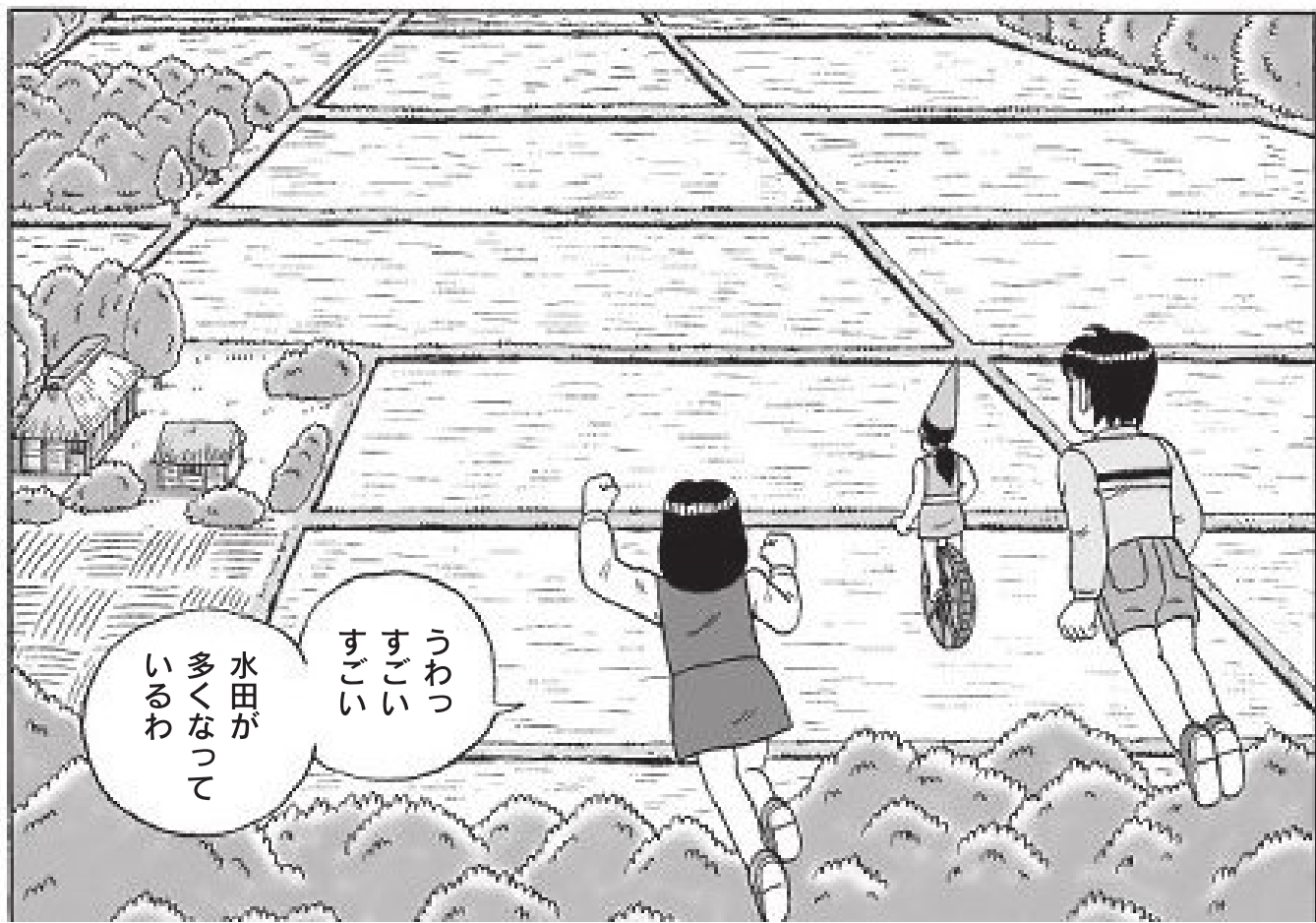
鉄道線路の
まくら木に
使われ

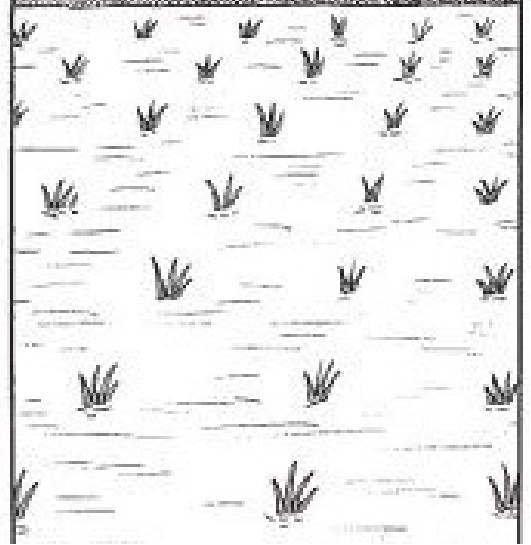
まくら木

北海道の
全体の発展に
役立ったん
だよ

へーっ
西野の自慢を
一つ発見って
ところだね









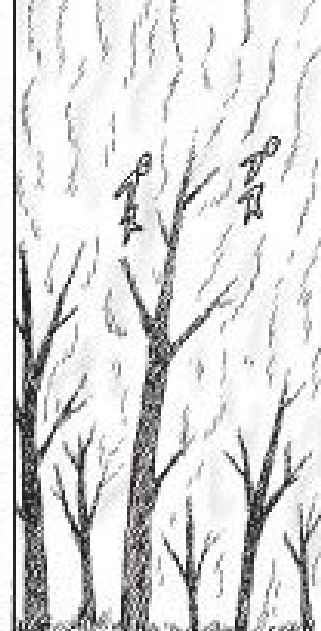




この時代は
消防隊も
レスキュー隊も
なかったから
自分たちの命は
自分で守るしか
なかったんだ



あれ地面
から人
が…
逃げおくれた
人が地面に
穴をほって
上からぬれた
ムシ口をかぶ
せて助かった
ところだ…



以前の盤溪の
山火事のあと
農作物を
植えたら良く
育った
わたしは
この山火事は
畑づくりの
苦勞を省いて
くれたと思う
だから…
これから
畑作をやっ
ていこうと
考えている
えっ
畑作ですか



木がなきゃ
炭づくりも
造材も
できない
これから
どうして
いけば
いいんだ



あの男が
言ったとおり
農作物が
良くとれた
これからは
畑作ね…
山火事の
あとの灰は
植物の栄養
となるん
だよ
このあと
小別沢は
畑作中心で
発展してゆく



小別沢じゃ
水田がで
きないの
地形や
水のことで
無理だった
でも
小別沢は
地理的に
有利なこと
があつた
だよ
えっ
なんなの？
ムフフフ
それは
あとの
お楽しみだ

時代は移り
大正2年の夏

西野の気温は
上がらなくて
稲が育たなかった

今年は
いままでで
一番寒い夏だ
米はとれない
だろうな…

その上
大雨が降り
続いた

うわっ
西野が
水びたし
だア

左股橋が
流されるほどの
大洪水になった
この大冷水害で
米はほとんど
とれなかったんだ

西野の人たちが
一生けん命作った
水田をこんな
にして

ひどい!!

イースは水の精霊
なのになんで
洪水から西野を守って
くれなかったの!!

そう
だよ

ボクには
自然の力を
変えることは
できない…

人がうまく
自然とつきあって
行くことを
見守っているんだ

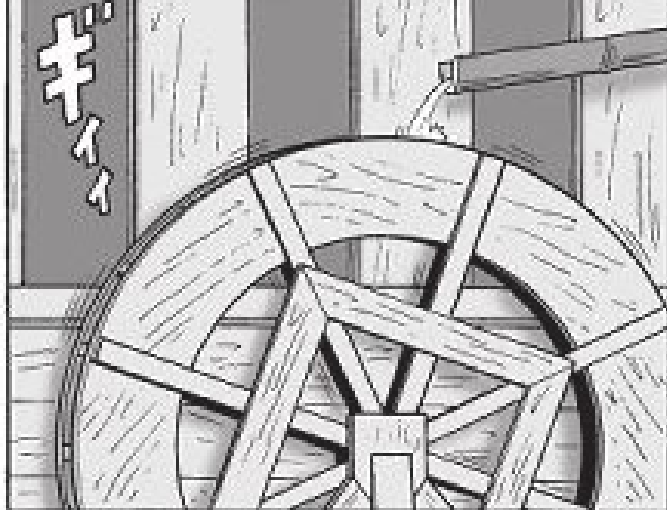
それに
川は
西野に
さまざま
恵みを
あたえて
くれるんだ

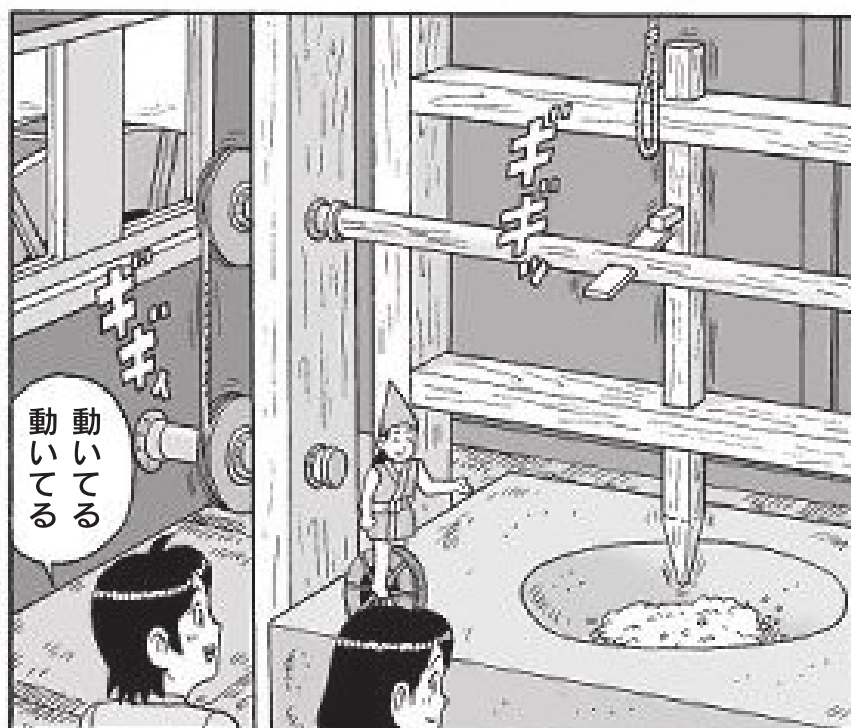
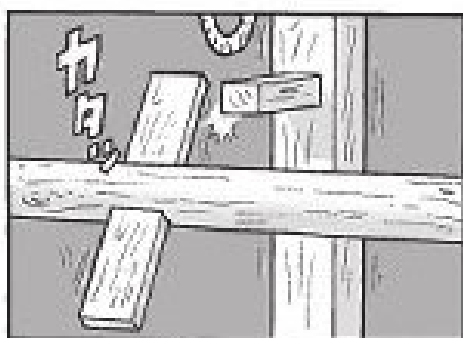
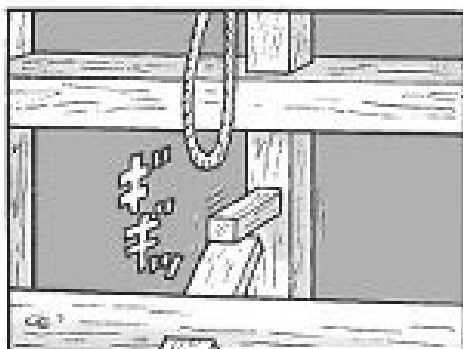
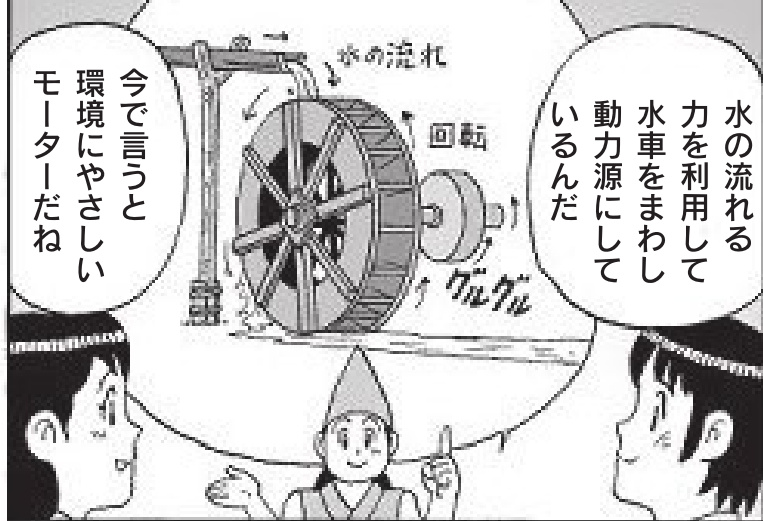
たとえば

これは…

ホタル
だよ











帰りの荷物は
カラだよ

これなら山道も
楽ちんね

円山朝市では
とれたての
新鮮な野菜や
くだもののほかに
山菜やきのこも
飛ぶように
売れたんだ



何かまき
ちらしたよ

とった
ばかりの
イチゴだね



今日も
小別沢の人は
円山朝市に
行くのね



でも朝市に出店
するために
夜の暗闇の中で
急な山道を歩く
のは、大変だった



大切に育てた
イチゴなのに
もったいない
……

昔は電気が
ないから
本当にまっ暗
なんだね……



うわっ
イチゴを
ふみつぶ
してる

こんな
暗闇の中では
ひろい集めるのは
無理だな



今なら車で
トンネルをくぐ
ればすぐ円山な
のに……

……まさか
あのトンネルを
掘るの？

そつアタリ!!
これから
トンネルを掘る
のを見に行こう



あの山がなければ
朝市に行くのも
楽なんだがなア

ああ……何かい
方法はないかな

この山にトンネルを
掘るって!!

荷車が…いや
大きな荷を背負った
人が通れるくらい
の小さなトンネルで
いいからな

円山へ行く
のが便利に
なるぞ

それは
わかるけど
どうやって?

仲間を作って
少しずつお金を
集めるのさ

それに時間が
あまったら
掘るのを手伝う
それで少しは安く
できるだろう

トンネルは
小別沢の人
全員の願い
だからな

わしも
その仲間に
入れてもら
おうかな

そうか

それは
ありがたい

女の身じゃ
この山登りは
きつい

わたしも
仲間に入れて
くださいよ

よろしく
たのむよ

こうして
小別沢トンネルを
掘ることになったんだ

みんなが
そう言う
なら
オレも
仲間に
よろし
もっと仲間
を集めよう

みんな
同じような事を
考えていたのね



大きな岩は爆薬で
壊すけど基本的には
ツルハシやノミで
掘ってゆくんだ



掘りはじめた
けど：
やっぱり
手作業なん
だね



1日でも早く
トンネルが
完成すること
を望んでいる
からね



小別沢の
人も
一生けん命
手伝って
いるね



地下水が
しみ出てる
んだ

だから昔は冷水
トンネルと呼ばれたんだ

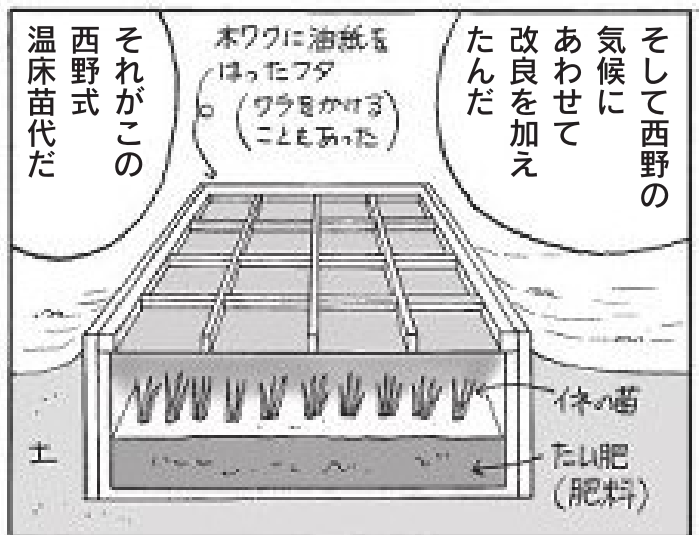
あれエ天井から
冷たい水が…

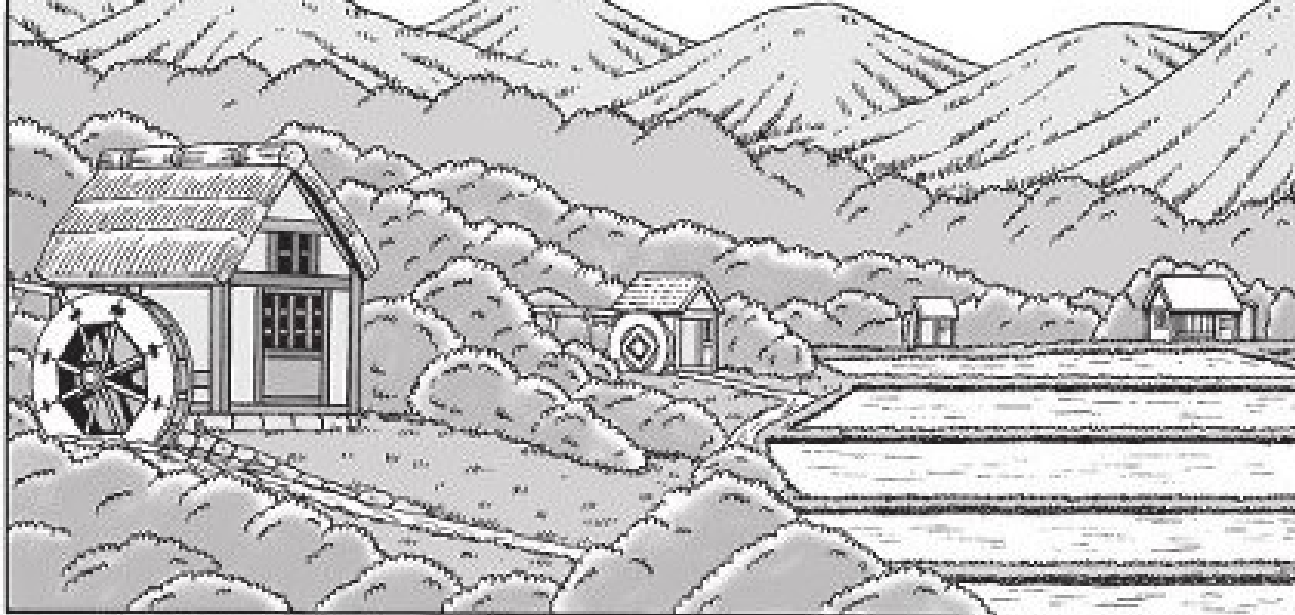


昭和3年
二年がかりで
約百メートルの
小別沢トンネルは
完成した！

今の小別沢
トンネルと
ずいぶん
ちがうな…

このトンネルは
煙の多かった
平和の人々も
市場に行く時に
利用したし
西野地区の生活に
必要なトンネルだったよ





昭和20年広島・長崎に
原爆が投下されたあと

たくさんの犠牲者を
出した戦争は、日本の
敗北で終わった…

戦争は西野地区にも
大きな影響を
あたえていた

その一つが電気

西野のすぐ近くまで
電線が施かれていたのに
工事は戦争で中断
戦後も物不足が続ぎ
再開されなかった



当時のあかりは
ほとんどがランプ

あんまり
明るくないね

そうだよ
だから西野の人々は
電気がつくのを
待ち望んでいた

ランプは
油を燃やして
明りに
していた
そのススが
ホヤについて
暗くなって
しまう

そのホヤを
みがくのは手の
小さい子どもの
役目だったん
だよ

フーツ

昔は子どもの仕事が
いっぱいあったんだア



オイ
みんな
聞いてくれ
ん
なんだ

電力会社の
人に聞いたら
自分たちで
電柱を立てたら
電線を施して
くれるって…

それで西野に
電気がつく
のか

そんなの
簡単だな

みんな
力を合わせて
電柱を立て
よう!!

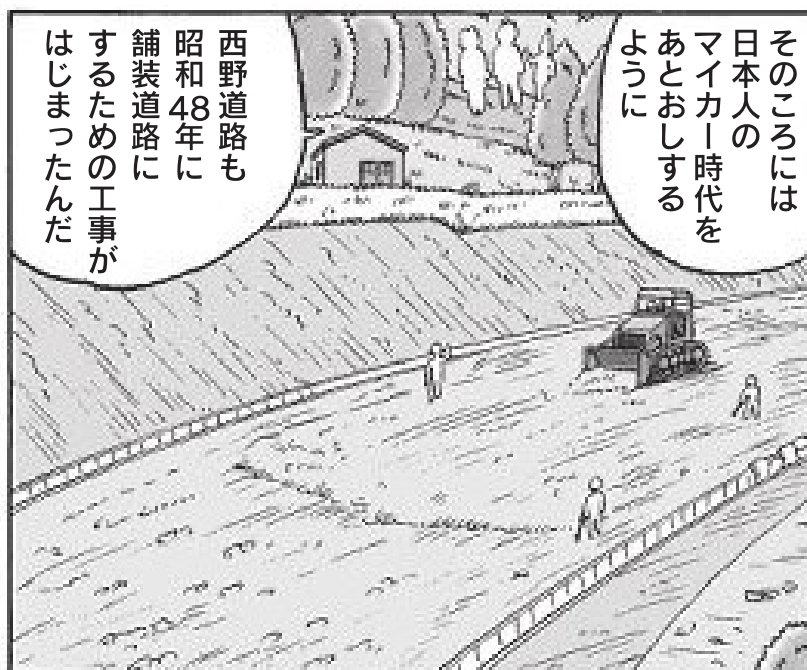








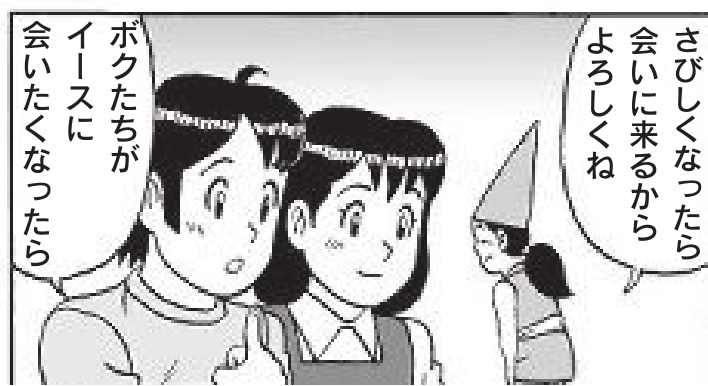


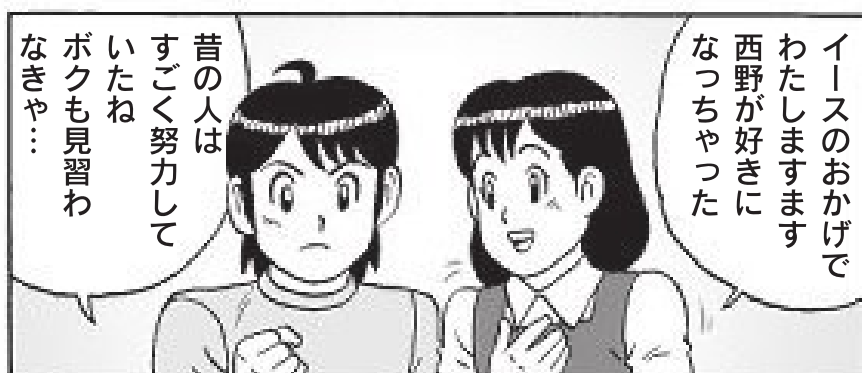


ひろがる住宅地（昭和48年）







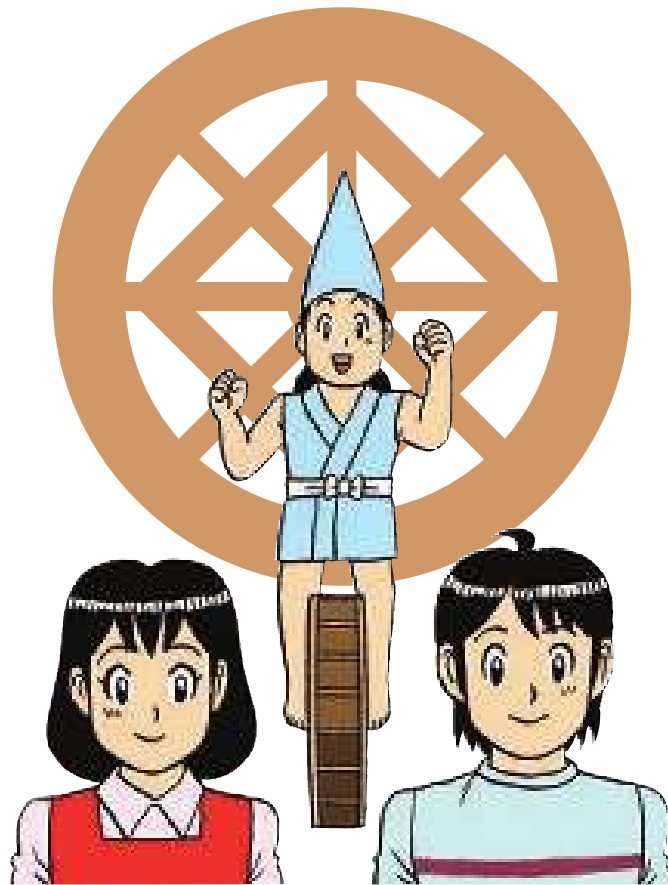


参考文献

- 西野連合町内会史
発行／西野連合町内会
- 昭和連合町内会史
発行／昭和連合町内会
- 福井の生い立ち
発行／札幌市西区福井町内会
- 平和の歩み
発行／札幌市西区平和第二町内会
- 郷土誌福井野に生きる
発行／札幌市立福井野小学校
- 郷土の歴史 平和
発行／札幌市立平和小学校
- 水車は語る
発行／「水車は語る」作成実行委員会
西野地区水車を復元する会
- 新西区のおいたち
発行／札幌市西区役所
- 図説学習日本の地理北海道地方
発行／旺文社
- 北海道の歴史
発行／山川出版社

編集委員

前鼻正守西野連合町内会相談役
佐藤功悦西野連合町内会長
中村治弘昭和連合町内会顧問
伊藤正寿昭和連合町内会長
西野まちづくりセンター
マンガ制作 西澤 裕



第1版 平成20年(2008年) 3月発行
第2版 平成23年(2011年) 9月発行
第3版 平成27年(2015年)12月発行

発行 西野ものがたり編集委員会